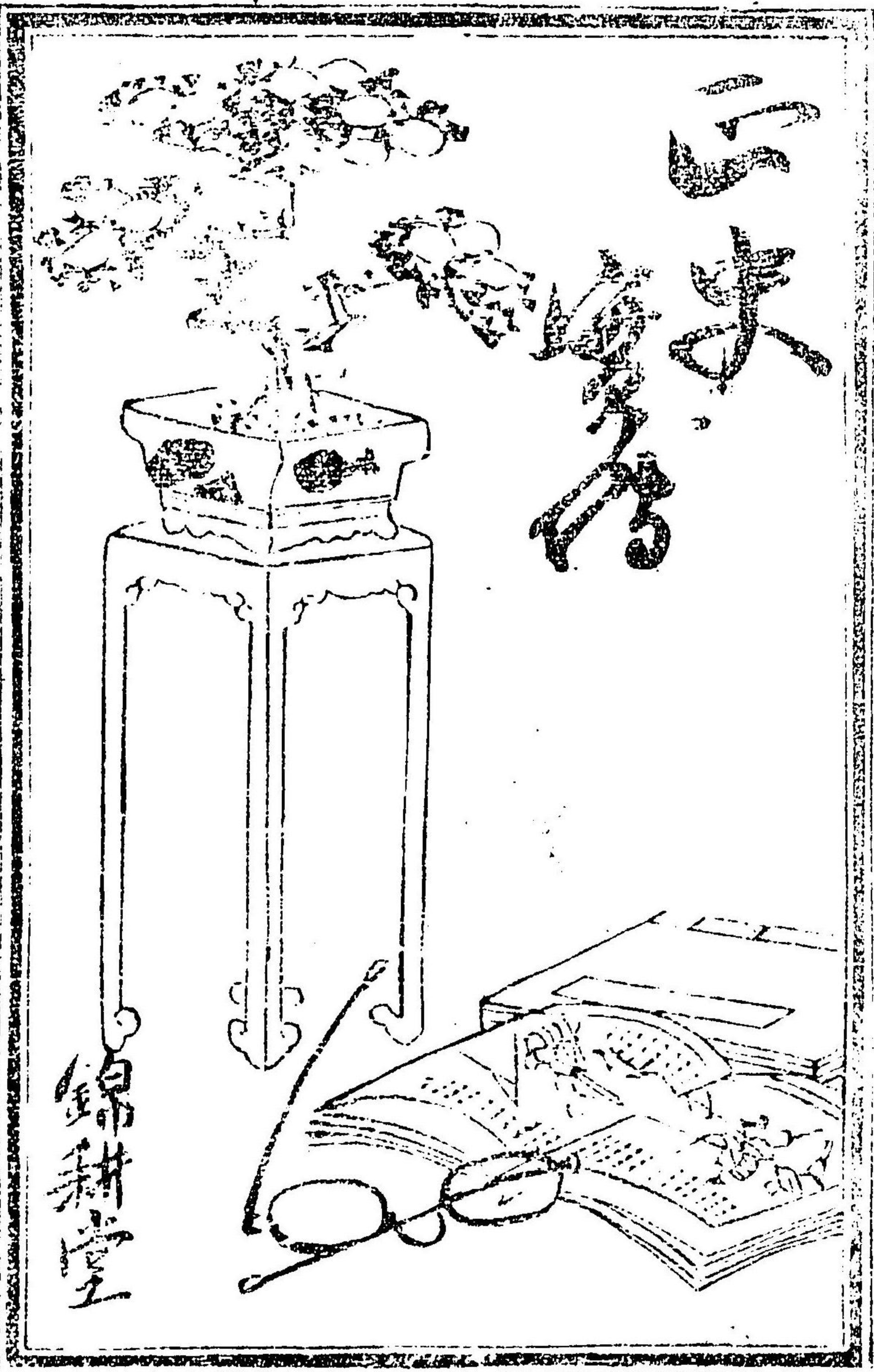


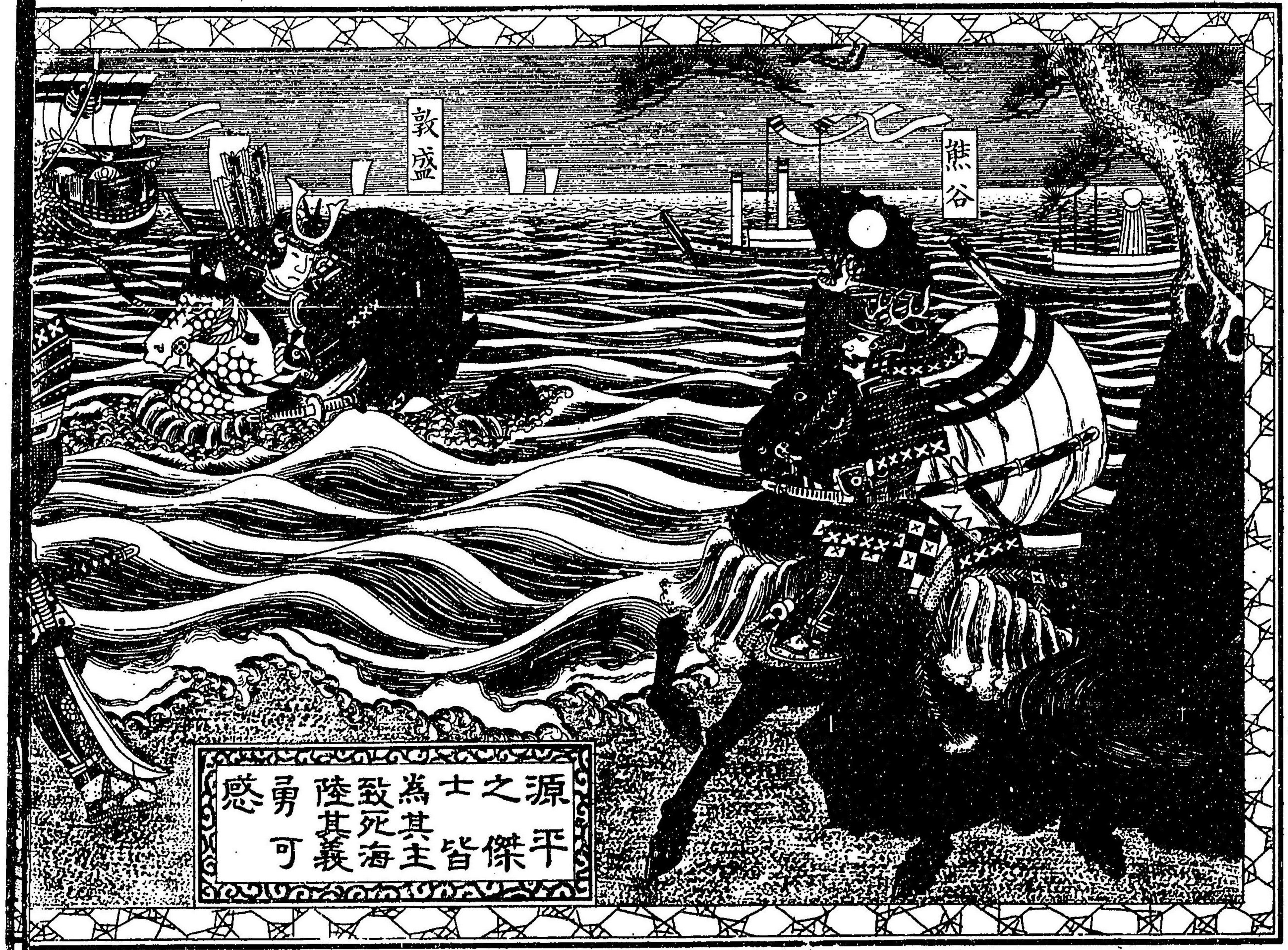
特42

834

義經勲功記 全



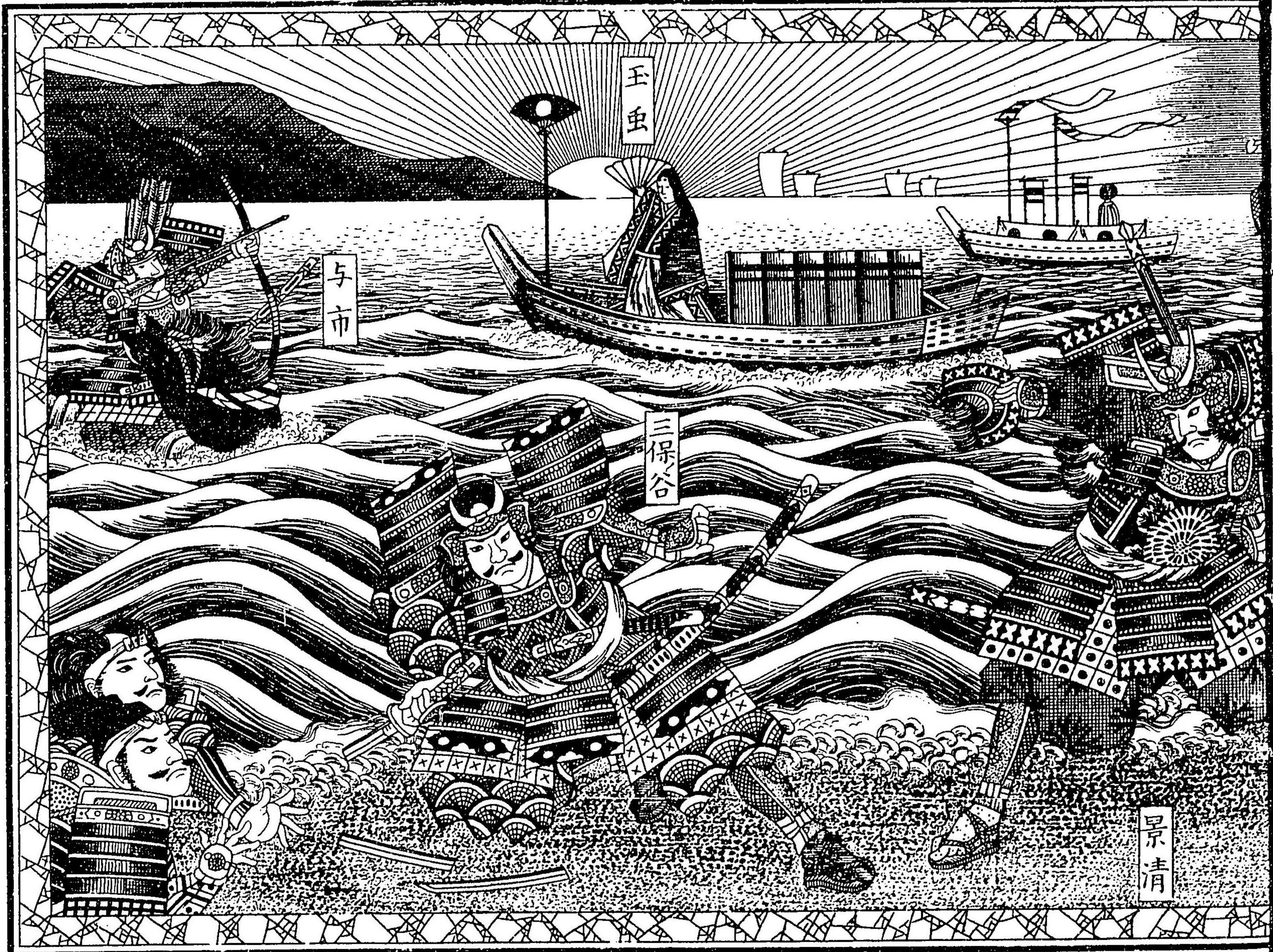




敦盛

熊谷

源平之傑士
皆為主
為其死
致其義
陸其
勇可
感



義經

五

贊義經
雙騎脫毒湖
功名震江手

義經

教經

義經





御曹子牛若丸
 義朝の九男なり
 亡びて平家不捕
 れ十才を鞍馬
 山に登り螢雪の
 功を積年十才部
 家の系譜と見
 吾祖先と知り夫
 より志しを決し大
 義を思ひ立夜々山
 中に入り武術
 試み能く



大念
 抱ひ
 鞍馬
 坊と出
 金賣言
 次々
 牛若丸
 者を徒へ與
 向る途中旅泊
 盗入り已ふ荷物も奪
 と牛若丸其賊長熟坂
 と斬て残賊を捕し働き
 凡人業と八思われ衆人舌を

三又
 至

六



牛若丸



長範
 當時秀衡鎮守府將軍

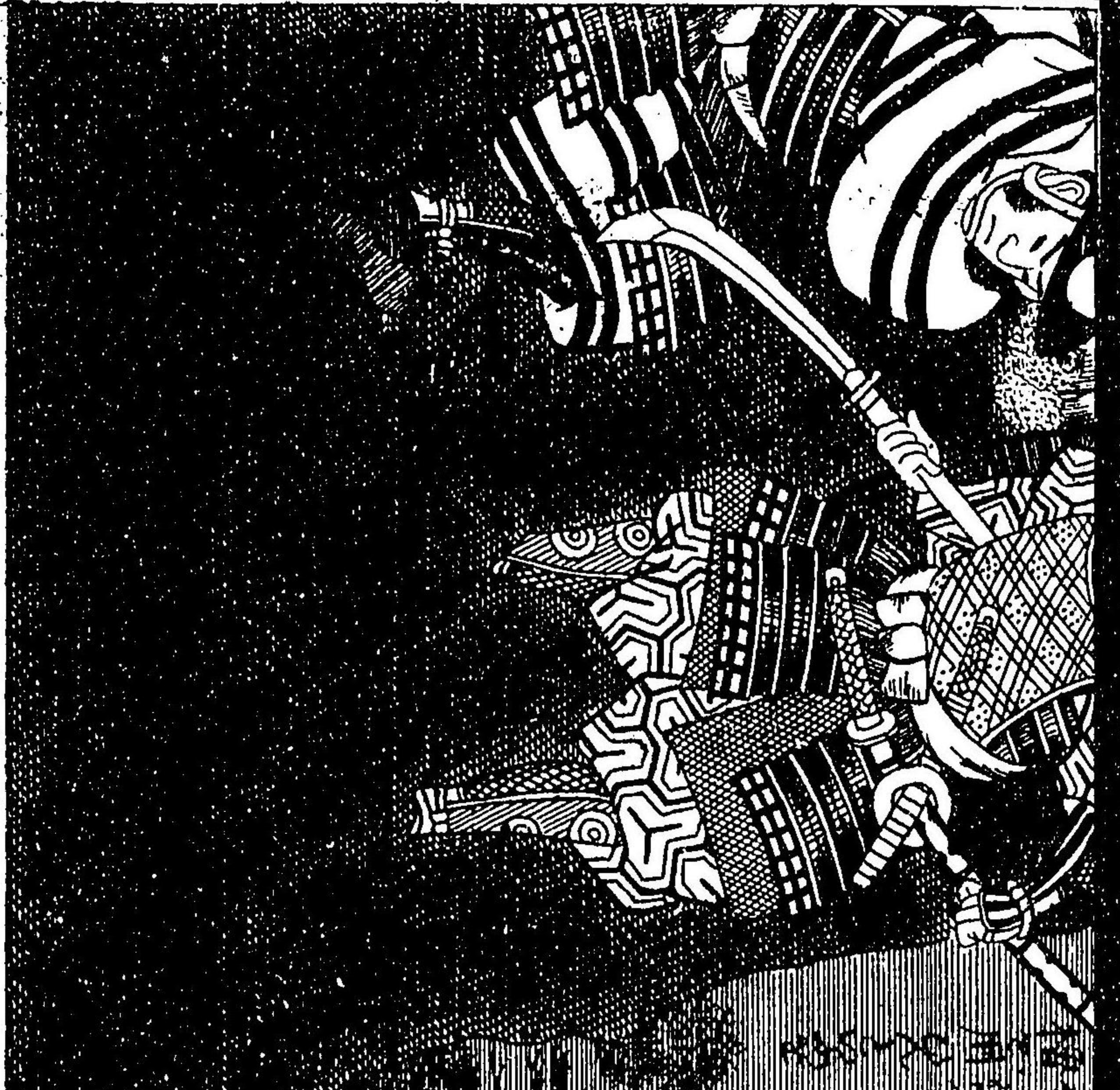
右の約と多し
 小遇也最町寧るり並ふ止り
 ける牛若丸都の様子もさぐり且
 一度都へ登りて深夜五條の橋
 どあやも薙刀ありとす牛若丸

く
E

七



義経の討ち死すに及ばず降参す
兄弟の再会
平家兼盛の
大軍を
討つ
義経の
兄弟
平家兼盛の
大軍を
討つ
義経の
兄弟



義経の討ち死すに及ばず降参す
兄弟の再会
平家兼盛の
大軍を
討つ
義経の
兄弟
平家兼盛の
大軍を
討つ
義経の
兄弟



義経
 抱き水中に沈み
 救い奉りける八
 島檀の浦の戦ひ
 平家の大将能登
 守教経義経と
 争ひしが義経は
 平家の大軍を
 打ち破りて軍船
 を飛ぶ教経は
 追討の功あり
 伊豫守に任
 ずる都の守護に
 堀の石河を賜ふ



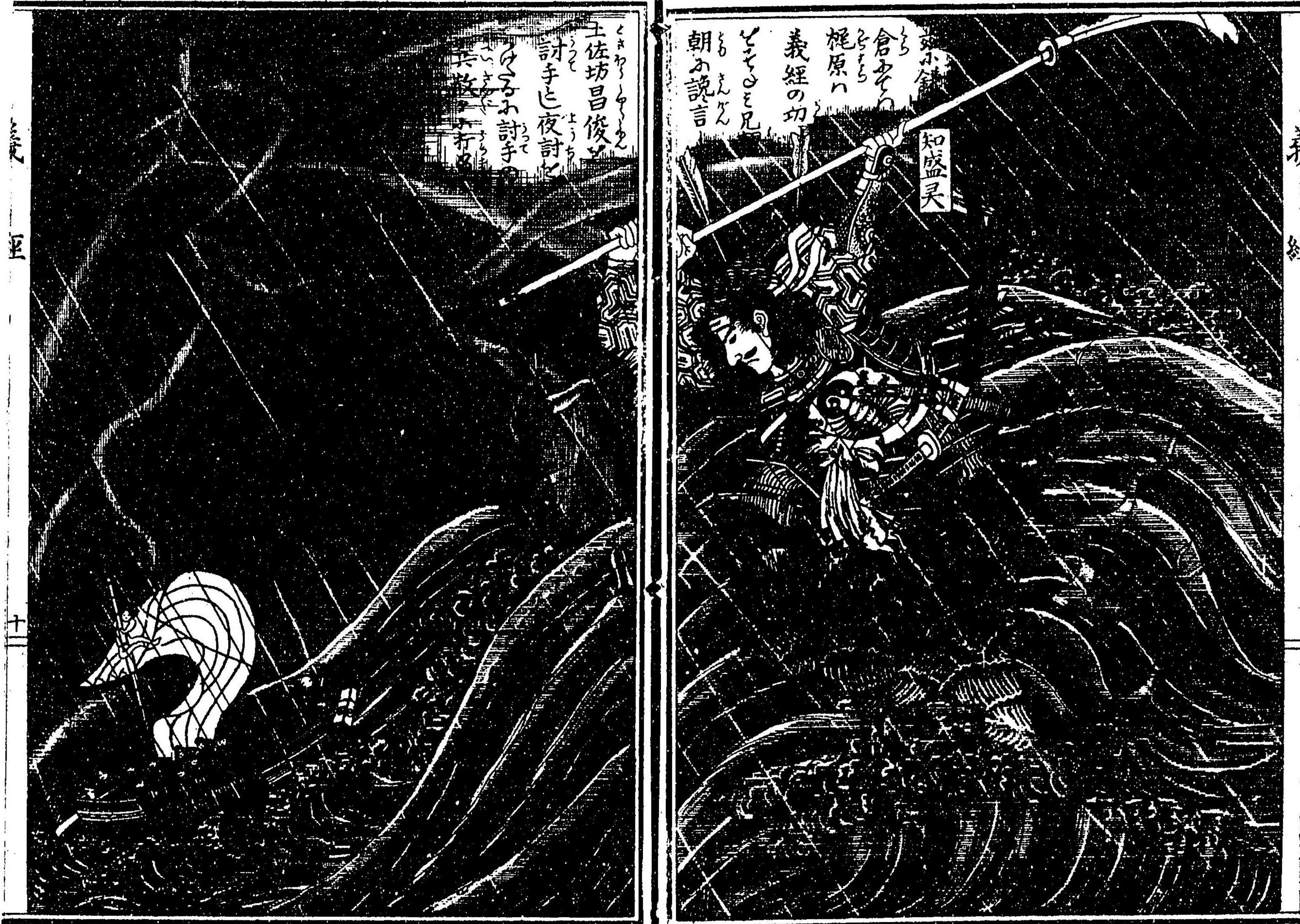
平家の大軍を義経
 打ち破りて全
 く追討の功あり
 伊豫守に任
 ずる都の守護に
 堀の石河を賜ふ

義経

九

逆櫓を用ひて大勝
 村に得たり又あると云ふに谷
 鴨越の難所を打越て平家
 の惣軍を迫まらう
 安徳帝と御
 倉に居る海上に漂ふ源
 義経之を護ら
 ず自ら来りてけ

平家

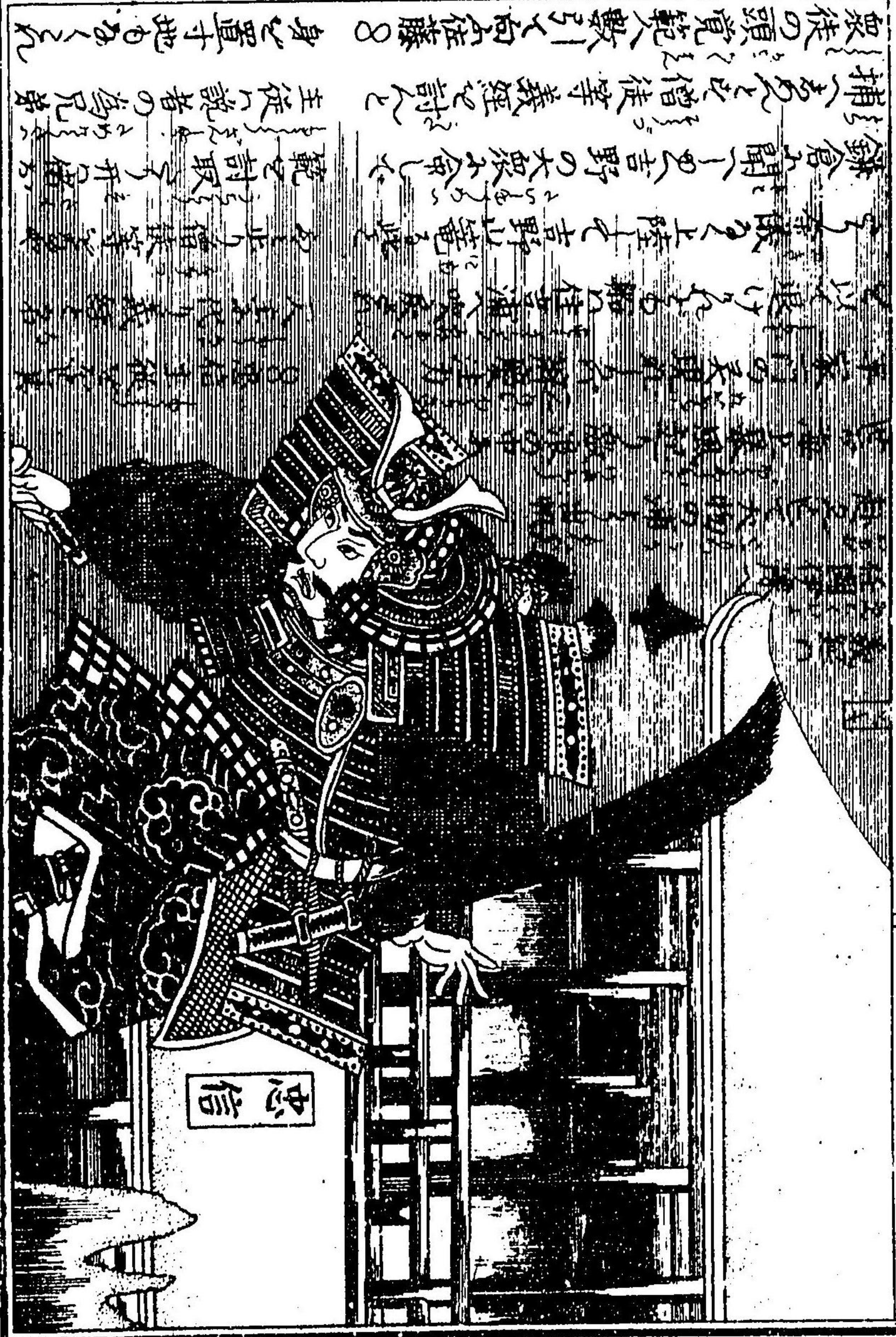


知盛
義経の功
梶原の
合戦
朝小説言
朝小説言

王佐坊昌俊
討手に夜討

天
正

天
正



衆徒の頭覺範あたまのしるし入敷いりしき引ひきて向むかひ佐藤さとうの身み置お置き寸すん地ちももくくれ

捕とらられれてて僧徒そうだ等ら義煙ぎえんの詠えいへ

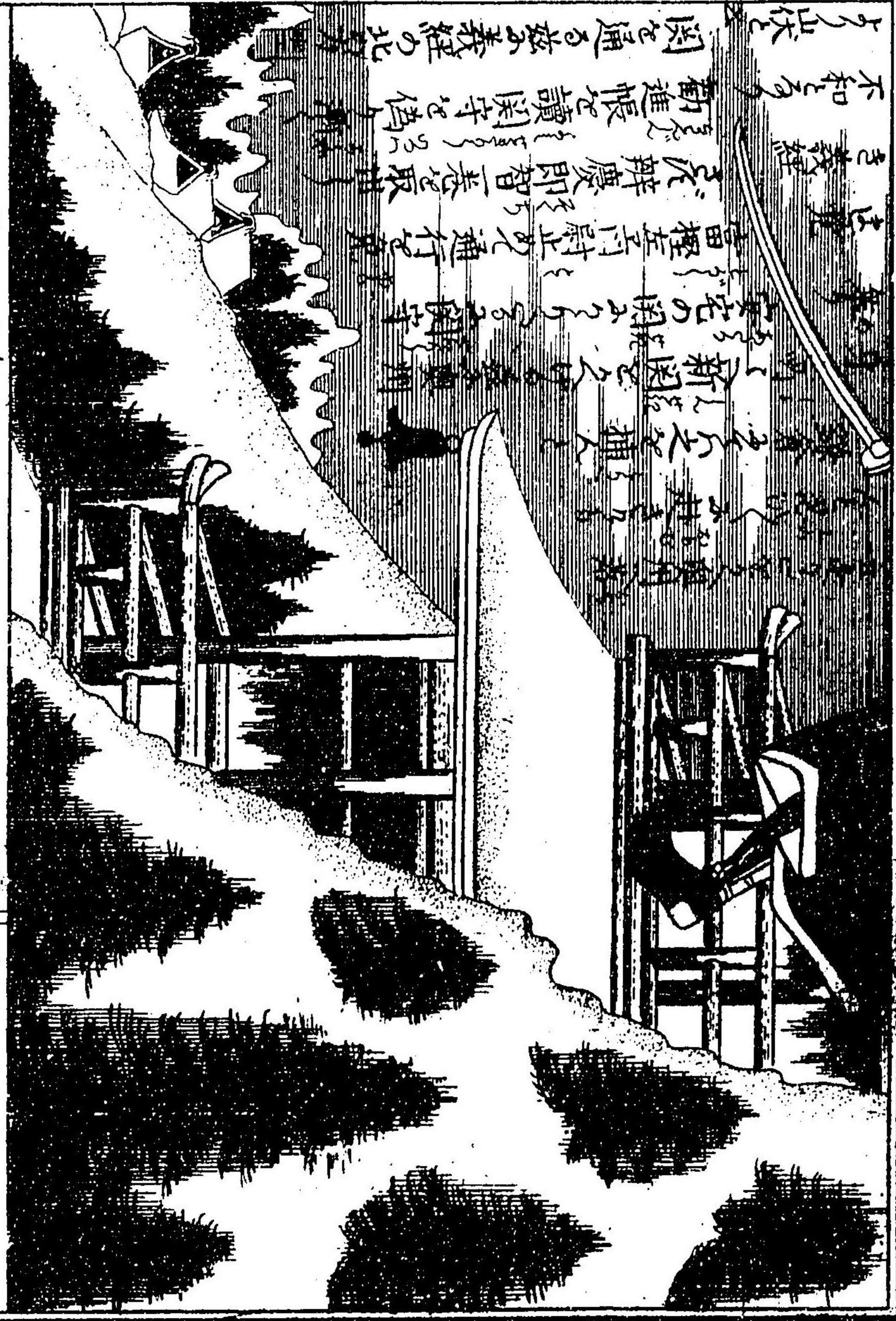
鎌倉かまがらの聞き一いつ也や吉野よしのの大衆たいしゆ本ほん命いのちしし

了りやうをを成じやうるる上じやう陸りくてて吉野よしの山やま麓ふもとへへ

以もて退たいけけんんのの難なんはは住すみみ海かいへへ吹ふかかれれてて

天あま門かどをを開ひらききてて大おほききのの事ことをを言いふふ

天あまのの御み使つかいにに命いのちをを下くだりり給たまははりり



不ふ和わととししとと新あらた因いんをを之をけけりりとと

當あた捏ね左さ門もん討うち止とめめのの通と行ぎやう也や

ははななししにに智ちをを取とりりとと不ふ和わとと

不ふ和わととししとと不ふ和わととししとと

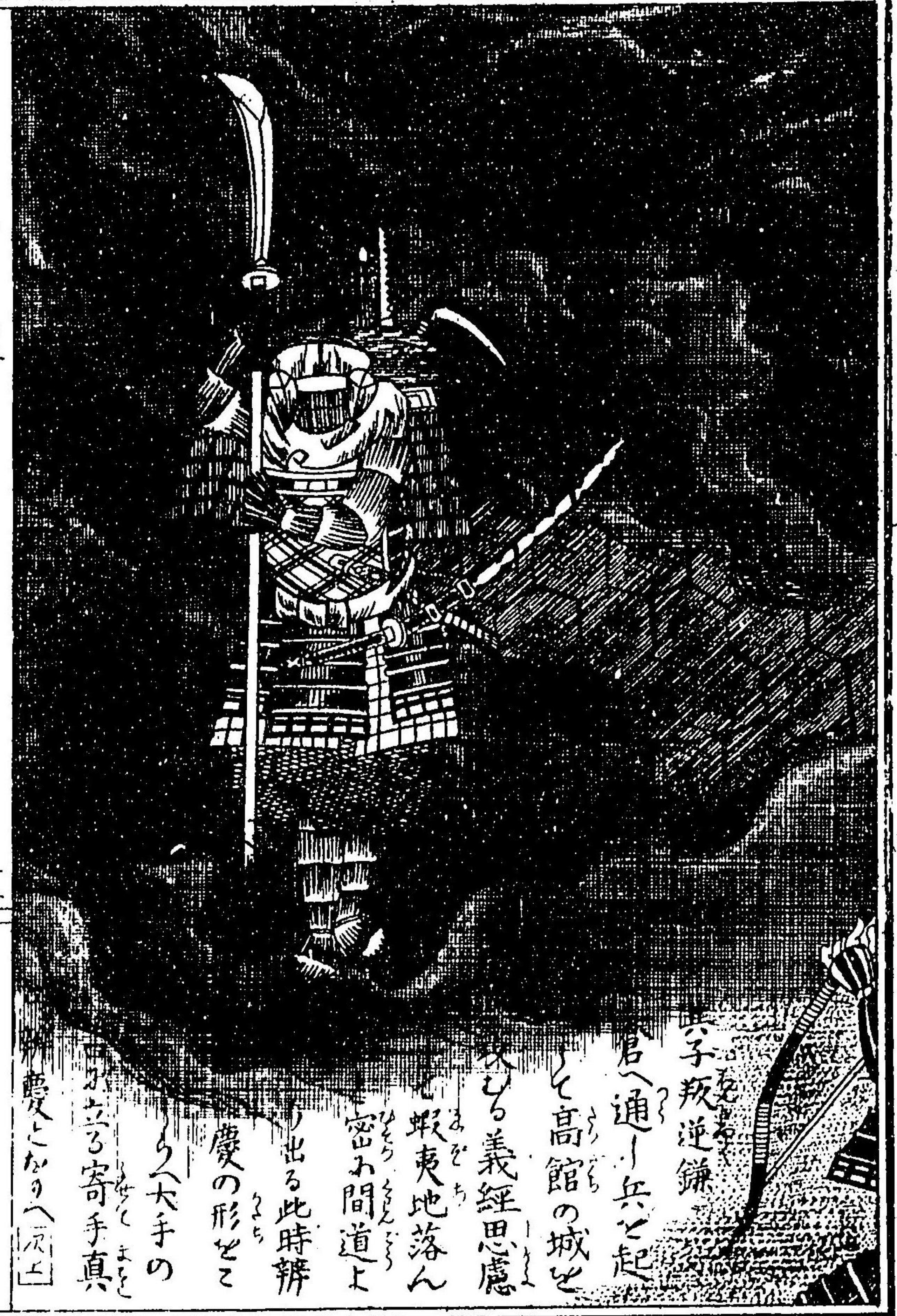
不ふ和わととししとと不ふ和わととししとと

不ふ和わととししとと不ふ和わととししとと

不ふ和わととししとと不ふ和わととししとと

同山伏の立下り
給ふ折しも懐胎のころ安宅
の因を越へ瓶割山を産の気見
産座あるふとひ千辛万苦して奥

會ひて秀衡義経
主従を厚く取あつら
ひ城を
とりげたる
後秀衡歿を



子叛逆鎌
君へ通し兵起
りて高館の城を
次むる義経思慮
ぬぬ夷地落ん
密に間道よ
り出る此時辨
慶の形をこ
ろ大手の
おたる寄手真
慶とかりへん



明治廿四年六月 八日出版
 日本橋区馬喰町三丁目九番地
 著作 兼 発行者 荒川藤兵卫
 印刷





特42

834

義経伝記

092038-001-1

特42-834

[絵本]

荒川 藤兵衛 / 刊

M24

DBP-0941

